

SNSにおける透明性の錯覚 に関する心理学的研究

東京大学 綿村英一郎



1. 研究の背景





◆ SNS (Social Networking Service)

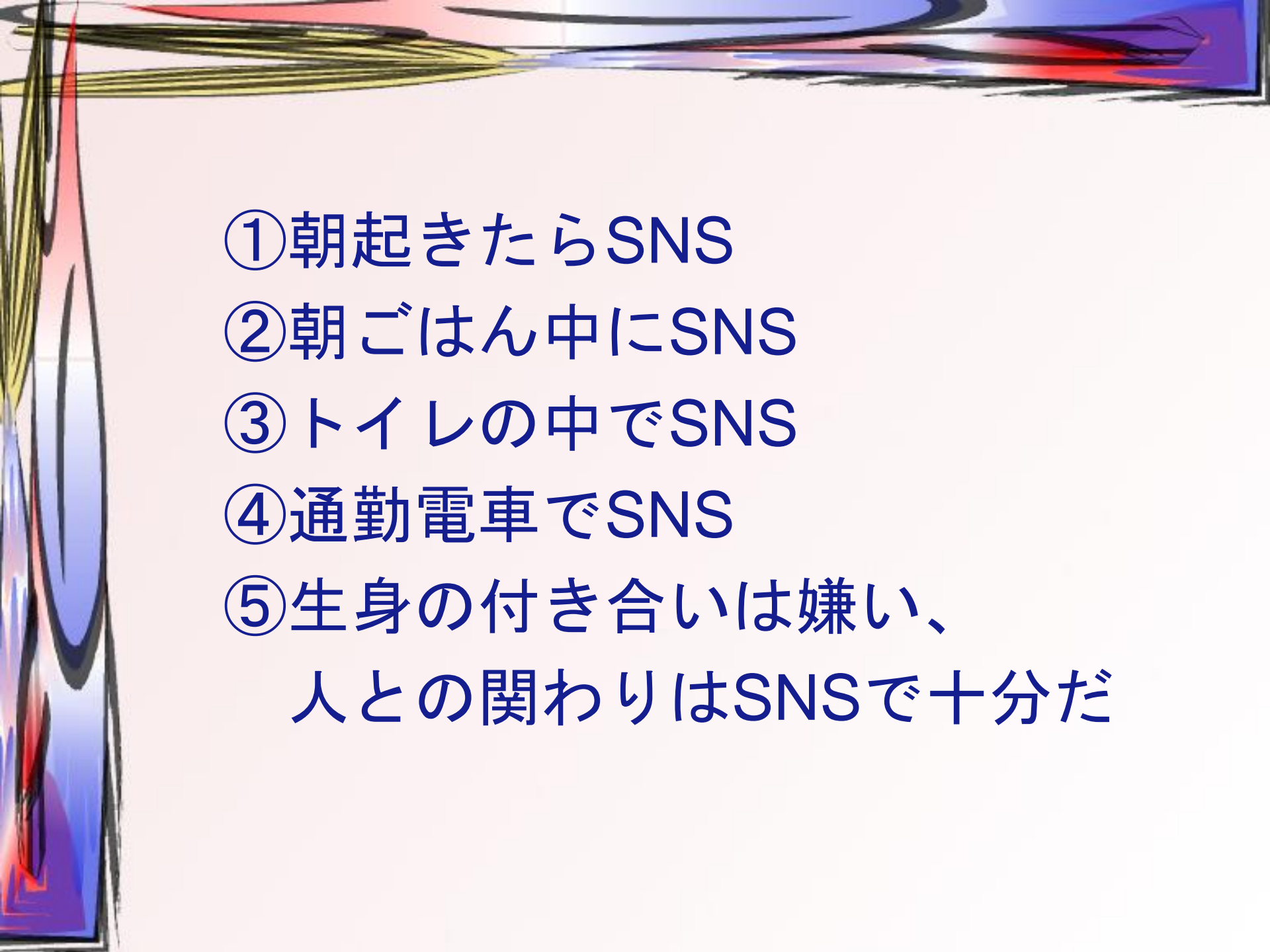
- Facebook
 - Instagram
 - LINE
 - mixi
- ...etc

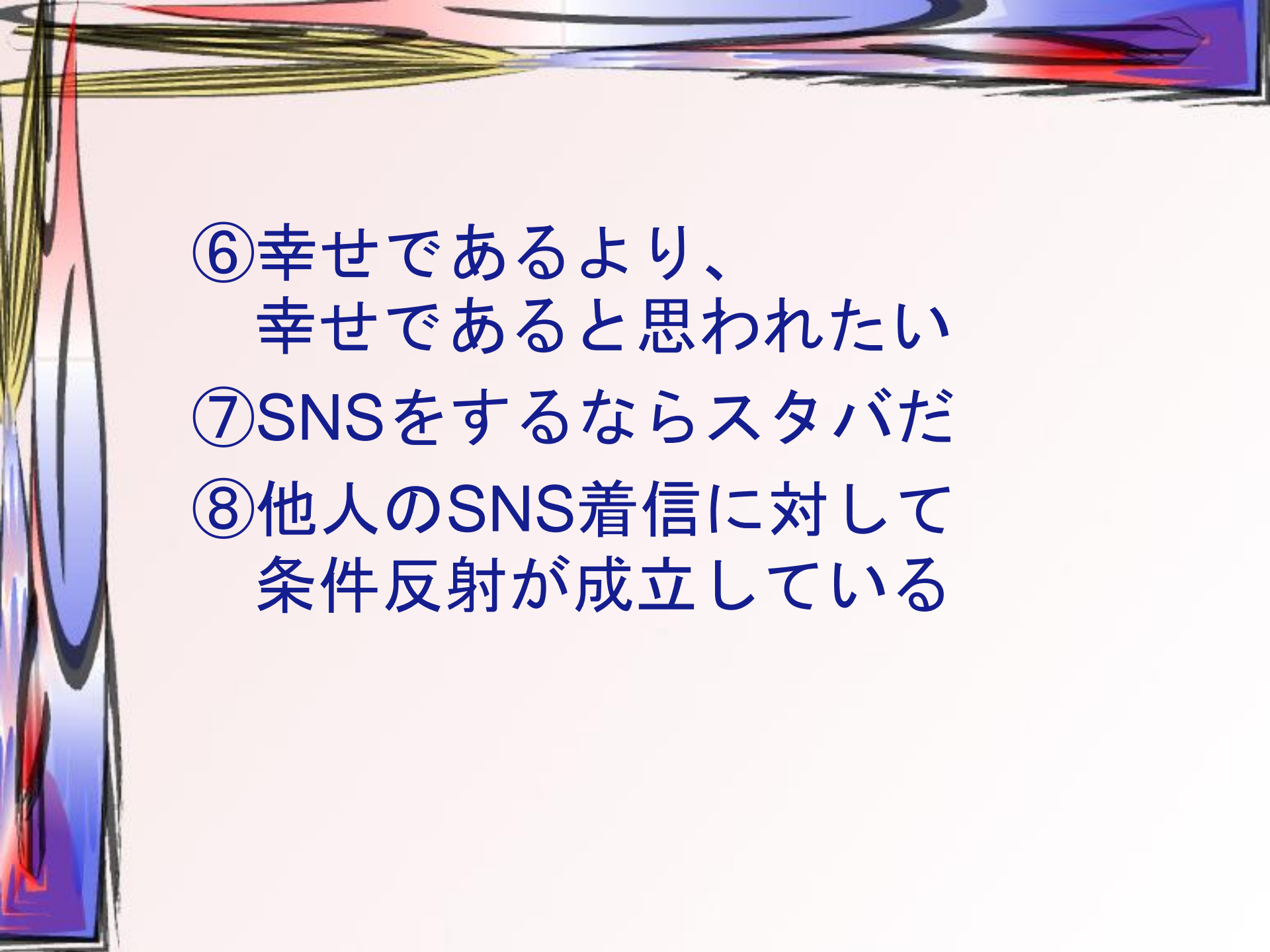


◆ SNS中毒の“あるある”

ご自身にあてはまるかどうか
チェックしてみてください

全部で10問あります

- 
- ①朝起きたらSNS
 - ②朝ごはん中にSNS
 - ③トイレの中でSNS
 - ④通勤電車でSNS
 - ⑤生身の付き合いは嫌い、
人との関わりはSNSで十分だ

- 
- ⑥幸せであるより、
幸せであると思われたい
 - ⑦SNSをするならスタバだ
 - ⑧他人のSNS着信に対して
条件反射が成立している

- ⑨ レストランに行ってSNSを
アップするのではなく、
SNSをアップするために
レストランに行く
- ⑩ 無駄なやりとりがとにかく多い
(おやすみ・・・スタンプ)

おやすみ



2. 既読無視における 透明性の錯覚



◆SNSのいびつな対話構造

無視した側：

「あ、そういうことなんだ(´_ゝ`)フーン」
と思われてしまうかも・・・（汗💧）

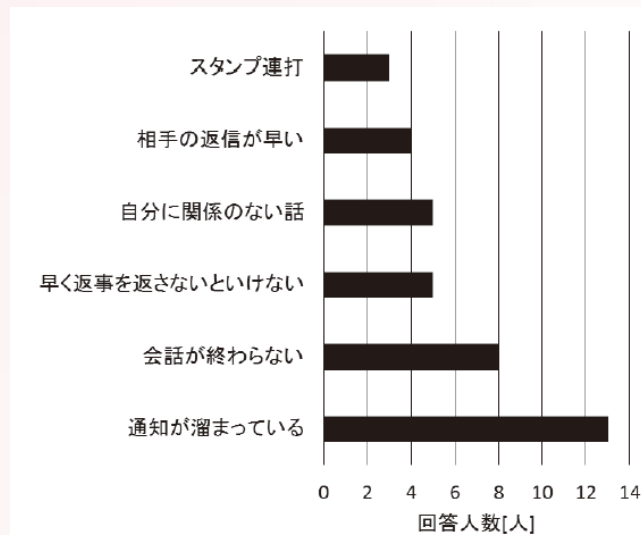


⇔無視された側：

・・・気にしていない

◆既読無視不安が引き起こす問題

- SNS疲れ（阿曾沼・林， 2015）



- 朝日新聞（2014）

中高生が語るLINE生活 返信しなきゃと強迫観念・大半「寝る時も近くに」

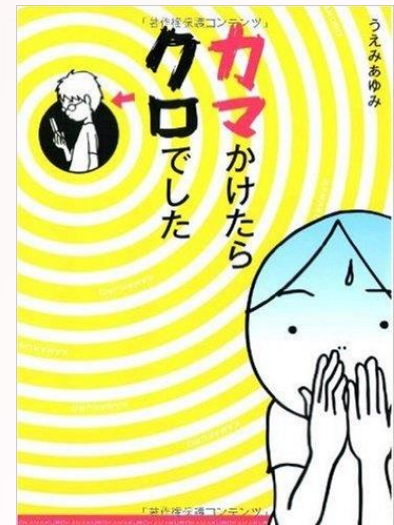
図6. どんな時に疲れを感じるか

◆本研究の出発点

既読無視不安に**透明性の錯覚**が
関わっている？

過度の見透かされ感

(Gilovich, Savitsky, & Medvec, 1998)



◆透明性の錯覚の実験（鎌田, 2007）

飲んだカルピスはお酢入り？



カルピスを飲んだ当人が見透かされたと予想した人数
－ 実際に見透かした人数
(4.1－1.9＝2.2) / 10人

◆既読無視不安と透明性の錯覚

無視された側は気にしていないのに、
無視した側は気にしてしまう

⇒返信しなければという強迫観念で返信

⇒返信された側も強迫観念で返信

⇒スパイラル



◆本研究計画

- ・ LINE を題材に検証



- ・ 研究 1 : LINE で透明性の錯覚は生じるのか？（集団実験）
- ・ 研究 2 : LINE で生じる透明性の錯覚の性質（ネット実験）

3. 実験 1





◆LINEでも透明性の錯覚は生じるのか？

⇔対面状況

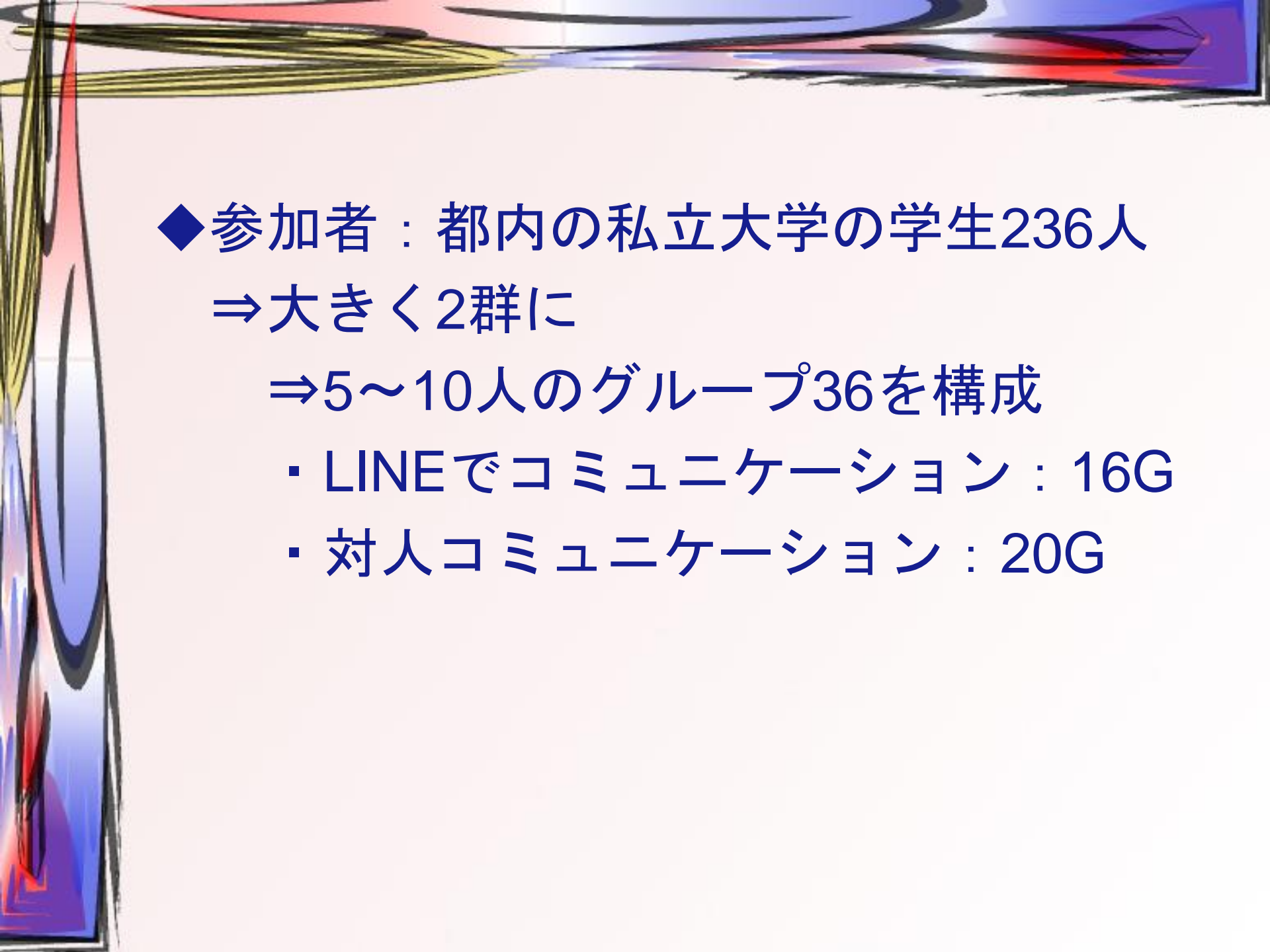
◆顔が見えない

⇒見透かす手がかりが限られる

○言語情報<スタンプ

×表情、口調、しぐさ

⇒見透かされる側にとっても

- 
- ◆参加者：都内の私立大学の学生236人
 - ⇒大きく2群に
 - ⇒5～10人のグループ36を構成
 - ・LINEでコミュニケーション：16G
 - ・対人コミュニケーション：20G

◆タスク（10分間）

リーダーは嘘が見破られないようにする

例. 体育の成績が2だった、小1でキスした

◆錯覚量

=嘘を見破られたとリーダーが予想したメンバーの人数
-見破ったメンバー人数

◆予測：LINE < 対面

他のメンバーは嘘を見破る

◆一部のタスクの結果 (%) (実際に嘘をついたとき)

	①嘘が見破られた	②嘘を見破った	透明性の錯覚量 ①-②
LINE 条件	0.66	0.49	+0.17
対面条件	0.53	0.60	-0.7

表 1. 嘘の見破られ感／見破った感

予測に反し、LINE > 対面



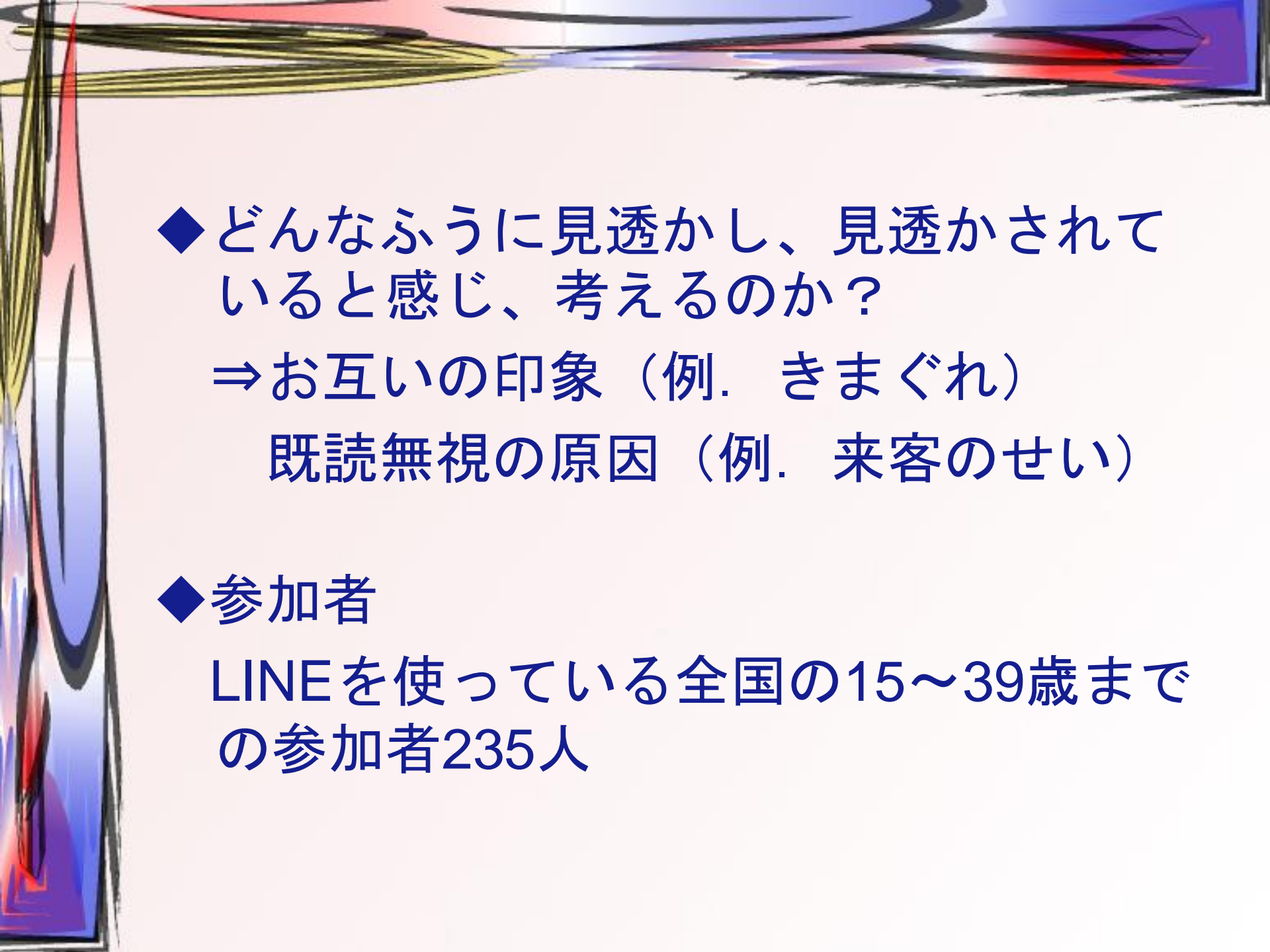
◆考察

- ・ LINE上のコミュニケーションでも透明性の錯覚は生じる
- ・ 顔が見えない＝見透かす手がかりが限られるはずなのに・・・
- ・ 手がかり、方略が対面とは異なる？
- ・ 透明性錯覚量のベースラインがそもそも高い？

4. 実験2

(インターネット実験)





◆どんなふうに見透かし、見透かされていると感じ、考えるのか？

⇒お互いの印象（例. きまぐれ）

既読無視の原因（例. 来客のせい）

◆参加者

LINEを使っている全国の15～39歳までの参加者235人

◆実験デザイン

- ・LINEをよくやりとりする人（Xさん）を想像させたいので、

- シナリオA⇒Xさんに既読無視された場合
- シナリオB⇒あなたがXさんを既読無視した場合

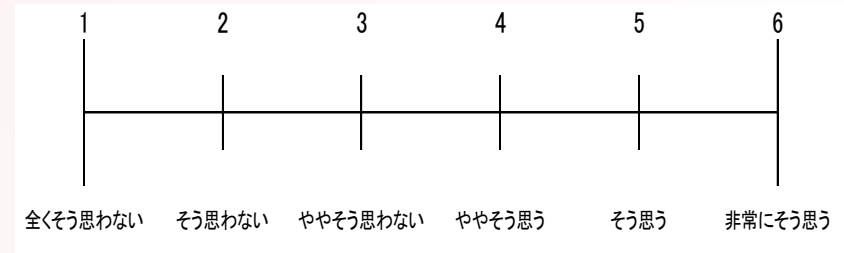
...いずれか1つを読み（参加者間）、アンケートに回答

◆アンケート：A（無視された場合）

あなたは、ある日の午後5時ごろ、Xさんに「今、帰宅中」というメッセージを送りました。メッセージはすぐに「既読」となりましたが、翌日の朝を過ぎても、Xさんからの返信はありません。

あなたはXさんをどんな人だと感じますか？

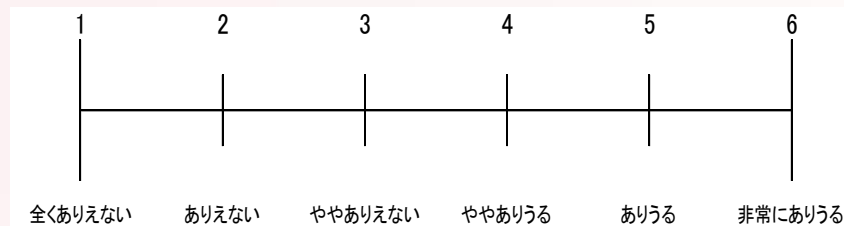
- ア. Xさんは、きまぐれな人だ
- イ. Xさんは、きちょうめんな人だ
- ウ. Xさんは、性格が悪い人だ
- エ. Xさんは、自分勝手な人だ
- オ. Xさんは、不誠実な人だ
- カ. Xさんは、親切な人だ
- キ. Xさんは、空気が読めない人だ



◆アンケート：A（無視された場合）

なぜXさんは返信をしなかったのでしょうか？

- ア. 急な来客があったからだろう
- イ. 一人になりたかったからだろう
- ウ. 私が嫌いだったからだろう
- エ. (LINEを送受信する)端末に不具合があったからだろう
- オ. 返信が面倒だったからだろう
- カ. 体調が悪かったからだろう
- キ. 私がわずらわしかったからだろう

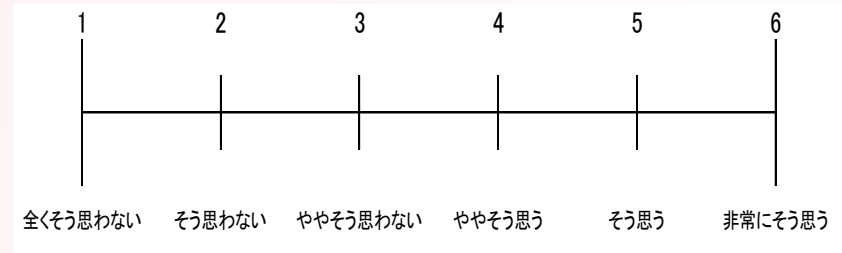


◆アンケート：B（無視した場合）

あなたは、ある日の午後5時ごろ、Xさんから「今、帰宅中」というメッセージを受信しました。あなたはメッセージを読み、Xさんも「あなたが既読」とわかっています。しかし、あなたは翌日の朝を過ぎても、Xさんに返信していませんでした。

Xさんはあなたをどんな人と感じたと思いますか？

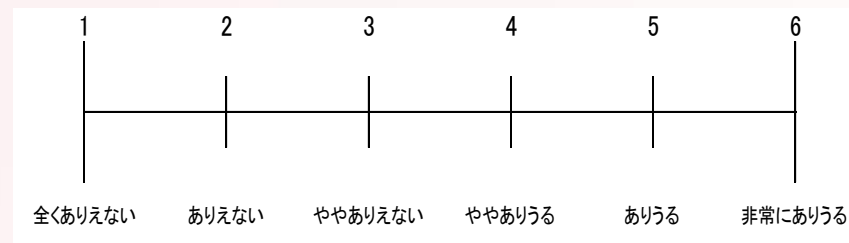
- ア. あなたは、きまぐれな人だ
- イ. あなたは、きちょうめんな人だ
- ウ. あなたは、性格が悪い人だ
- エ. あなたは、自分勝手な人だ
- オ. あなたは、不誠実な人だ
- カ. あなたは、親切な人だ
- キ. あなたは、空気が読めない人だ



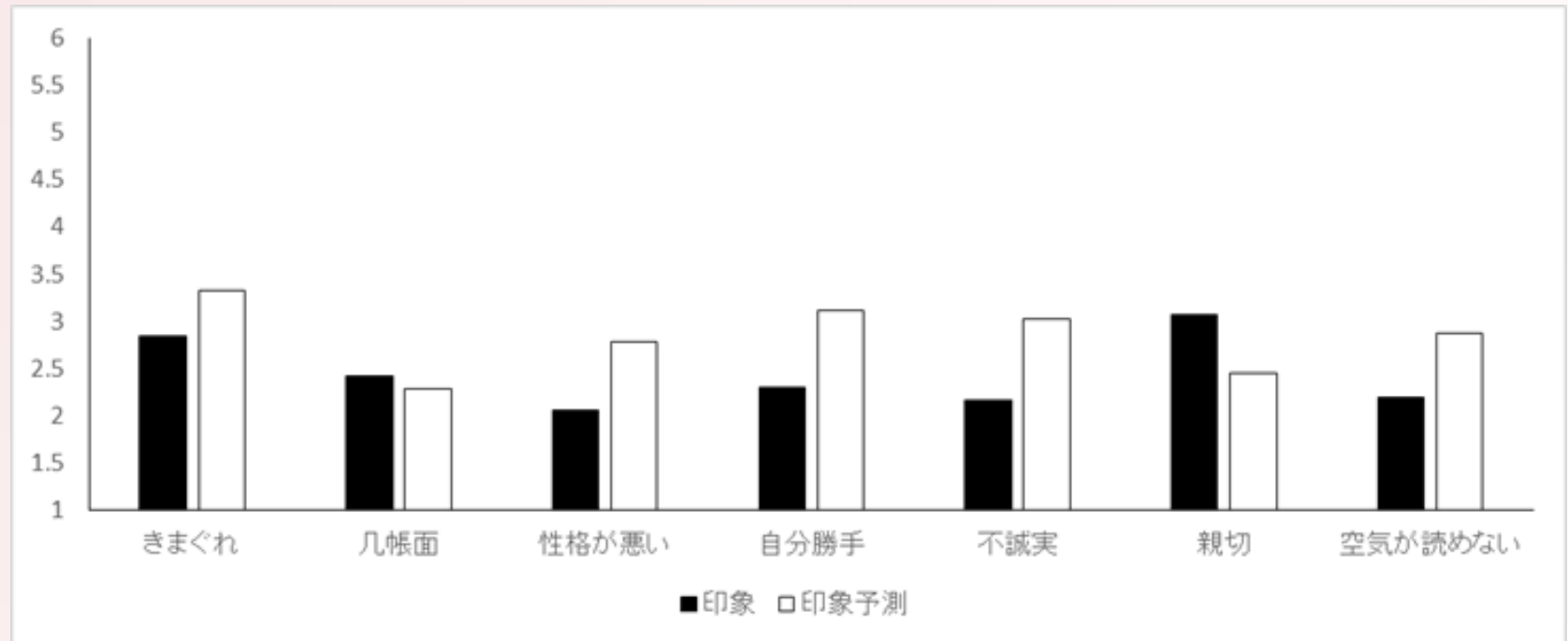
◆ アンケート：B（無視した場合）

なぜあなたが返信をしなかったのか、Xさんはどう考えるでしょうか？

- ア. あなたに急な来客があったからだろう
- イ. あなたが一人になりたかったからだろう
- ウ. あなたが自分(=Xさん)を嫌いだったからだろう
- エ. (LINEを送受信する)あなたの端末に不具合があったからだろう
- オ. あなたにとって返信が面倒だったからだろう
- カ. あなたの体調が悪かったからだろう
- キ. あなたにとって、自分(=Xさん)がわずらわしかったからだろう

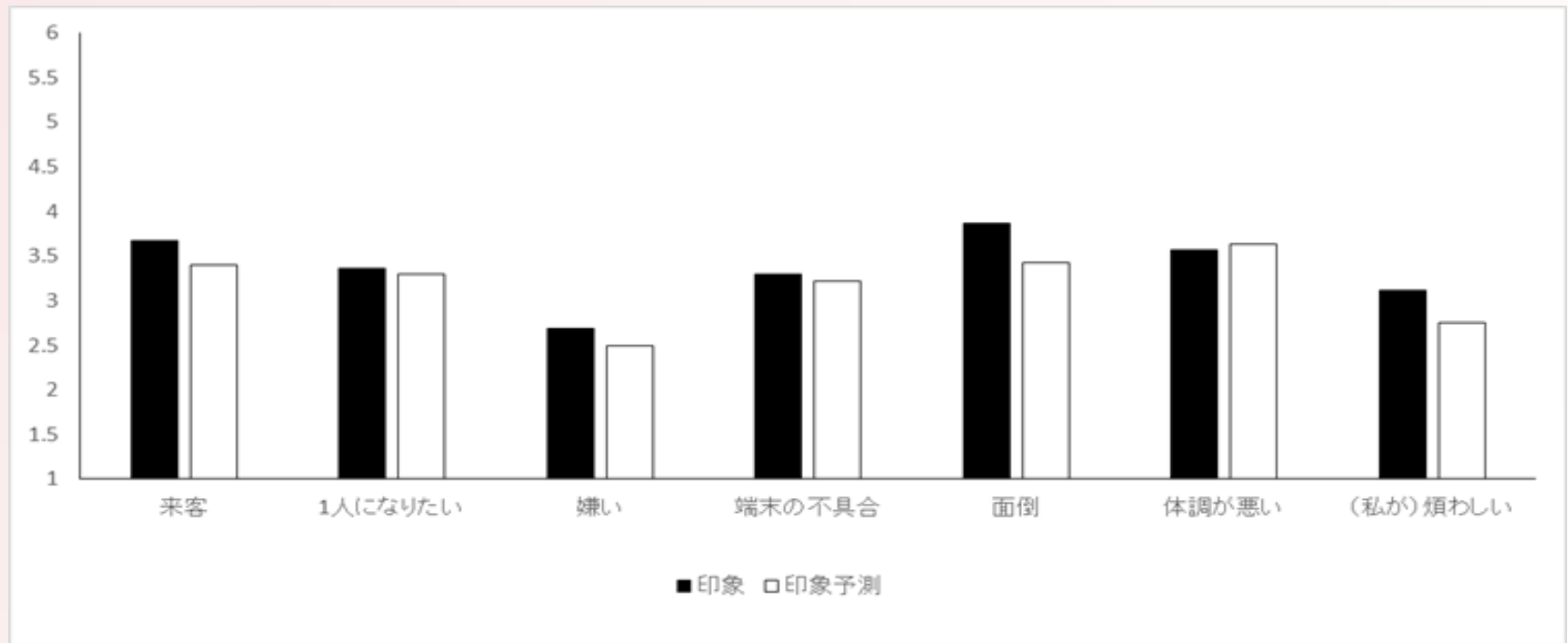


◆お互いの印象



- …あなたがXさんに既読無視された場合に、あなたがXさんに抱く印象
- …あなたがXさんを既読無視した場合に、Xさんがあなたに抱くであろう印象

◆既読無視の原因



■…あなたがXさんに既読無視された場合に、あなたが考えるXさん側の原因

□…あなたがXさんを既読無視した場合に、Xさんが考えるであろうあなた側の原因

5. まとめ





◆本研究の出発点

- 既読無視不安の実態として、無視した側は無視された側以上に気にする
 - ⇒強迫観念
 - ⇒SNS依存
- 「透明性の錯覚」という切り口から検証

◆結果

- ・ 見透かす手がかりが少ないはずのSNSでも透明性の錯覚は生じる（実験1）
- ・ 印象評定・原因帰属の複雑な**非対称性**（実験2）
 - = 自分が無視したときには印象悪化を懸念し、無視されたときには嫌な理由を考えてしまう（相手依存）

◆ どうしたらSNSとうまくつきあえるか？

- 既読無視したとき

⇒相手は自分が気にするほど気にしていないので、そっと無視する

- 既読無視されたとき

⇒自分と同じように相手も気にするので、返ってきててもそっと無視する

⇒互いの強迫観念で駆られるスパイラルを収束できる可能性

◆ 学術的観点

ヒトは何を根拠に見透かされたと感じてしまうのか？



ご清聴ありがとうございました。
安心ネットづくり促進協議会に深く感謝申し上げます。

